



2019年2月25日

各位

会社名 株式会社 識学
代表者氏名 代表取締役社長 安藤広大
(コード番号 7049 東証マザーズ)
問い合わせ先 取締役経営推進部長 池浦良祐
(TEL : 03-6821-7560)

株式会社チェンジと共同で人材の生産性を可視化するための

データアナリティクスサービス開始

～個々人の生産性を測定することで、より効果的な組織マネジメントが可能に～

株式会社識学（東京都品川区、代表取締役社長 安藤広大）は、本日（2019年2月25日）付けで株式会社チェンジ（東京都港区、代表取締役兼執行役員社長：福留大士）と連携し、企業における従業員の生産性を可視化するためのデータ分析サービスを開始することを決定しましたのでお知らせいたします。

従来、生産性の測定は、店舗・チーム・プロジェクトといった組織単位の平均値で行うことが主流でありました。しかし、実際には、1人1人の生産性は異なり、個人個人がどの程度生産に貢献していたのかを見える化しなければ、適切な打ち手や評価を正しく実行することができません。そこで、両社は人にまつわるデータ（人事・労務データなど）を活用・分析し、「個人レベルでの生産性」を見える化する手法を確立しました。

本サービスは、当初、小売業・飲食業向けに展開して参ります。これらの業種においては、「突出して生産性の高い人材」に対する処遇を適正なものにし、リテンションを図ることが最重要です。また、そのような高業績を達成する人材がどのような働き方をしているかを分析し、マネジメントを通じて組織内に浸透・展開させることも有効な施策です。

【本サービスの提供イメージ】

- データ分析プロジェクトの進め方は以下の3ステップです。
 - ステップ1（データ準備）：社内データを精査し、分析に必要なデータをリストアップ

- ステップ2（全期間分析）：整備したデータをもとに、対象期間内の「個人個人」の生産性を分析
- ステップ3（時系列分析）：受領したデータ及び定期的に追加するデータによって、生産性の時間的変化を追跡
- 本プロジェクトの成果物を通じて、経営に活用できることは次の通りです。
 - 個人別生産性：短期・長期での個人の生産性を基礎に、人材をマッピング
 - 役職別生産性：アルバイトから正社員に登用すべき人材は誰かを適切に評価
 - 時系列生産性：生産性を向上・低下させる要因の分析と対策・個人のフォローアップ

本サービスは、識学とチェンジが共同で、両社が目指す「企業の生産性向上」を成し遂げるために研究してきた成果が結実したものです。両社は「働き方改革＝生産性向上」と捉えており、識学のマネジメント方法論とチェンジのデータサイエンスのノウハウを組み合わせることによって本サービスを立ち上げるに至りました。

【本サービス開始時期（業務提携開始時期）】

平成31年3月1日（金）予定

※本件が当社の業績に与える影響は、今後開示予定の業績予想に織り込む予定です。

株式会社識学の代表取締役社長 安藤広大は、「一人一人の人材の生産性を可視化し、評価に用いることで、平等な職場環境の構築、成長を促進するマネジメントの実現に寄与すると考えています。これらの取組が、今後の日本企業の生産性向上に大いに役立つと確信しております。」と述べております。

※本適時開示記載の情報は発表日現在の情報です。

■株式会社識学：

<https://corp.shikigaku.jp/>

本社：東京都品川区 代表取締役社長：安藤広大

事業内容：識学を使った経営、組織コンサルティング、識学を使った従業員向け研修、識学をベースとしたwebサービスの開発、提供